

w005001	[中間区] 村の風景	概要 適用
 <p>w005001001) 山に向かう坂道から望む住宅群、奥に海と中間港が見える</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="257 842 481 997">  <p>w005001002 東の山</p> </div> <div data-bbox="526 842 750 997">  <p>w005001003 ガジュマルの坂道</p> </div> <div data-bbox="795 842 1030 997">  <p>w005001004 土手の石積み</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="257 1093 481 1248">  <p>w005001005 石塀の家</p> </div> <div data-bbox="526 1093 750 1248">  <p>w005001006 住宅を囲む石塀</p> </div> <div data-bbox="795 1093 1030 1248">  <p>w005001007 石塀上の緑</p> </div> </div>		<p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間川の西側に古くから住宅が集中して、集落の中心をなしている。 ・傾斜地にある集落には畑地などの石積みや家を取り囲む石塀が多い。 ・地元にも腕のいい石工(明治時代、清水 伊太郎)がおり、見事な石垣が見られる。 ・石塀に囲まれた住宅に面した集落内道路や、密集しながらも緑の多い住宅群が中間の特徴になっている。 ・各家を取り巻くように通じる2m未満の通路が中間らしい暮らしの風景を作っている。 ・赤道アカミチと呼ばれるこの通路は、個人所有地ながら誰でも通行できる習慣になっているが、最近は閉ざされている例も多い。 ・住まいの一角には薪窯の風呂や床下の利用、馬を飼っていたと思われる建物も見られ、その他住宅のつくりなどに古くからの暮らしの姿がしのばれる。 ・村の中に山(森)との接点を示す祠「森山大明神」があり、自然に近い暮らしの文化がしのばれる。 ・現在は住宅群と海の間にはバイパスがあるので、車両通行の少ない集落内はのどかな日常が見られる。 <p>【資料】</p> <p>① 屋久町郷土誌第1巻村落誌上 他に区長、住民聞き取り</p> <p>【写真】</p> <p>w005001001)山に向かう坂道から望む住宅群、奥に海と中間港が見える。 w005001002)東側の標高 550m 余の山は無名ながら、一番近い馴染みの山容。</p>



w005001008
赤道と呼ぶ通路



w005001009
赤道 a



w005001010
赤道 b



w005001011
住宅の畜舎



w005001012
薪窯の風呂



w005001013
障子板戸の座敷



w005001014
床下の利用



w005001015
里の森山大明神



w005001016
庭の守り石



w005001017
里の道



w005001018
のどかな里



w005001019
七五岳

w005001003)ガジュマルの多い中間川から少し坂を上ると住宅群がある。

w005001004)傾斜地にある集落には石積みも多い。

w005001005)見事な石塀に囲まれた住宅。

w005001006)住宅を囲む石塀。

w005001007)石塀の上にも緑が見られる。

w005001008)赤道と呼ぶ各家の間の通路。

w005001009)赤道

w005001010)赤道

w005001011)馬小屋のある家。

w005001012)薪窯の風呂と燃料の蓄えも村の風景。

w005001013)障子板戸の座敷。

w005001014)床下の利用。

w005001015)暮しの中にある山の神様は森山大明神。

w005001016)庭先の尖った石は屋敷の守り神

w005001017)今はベッドタウン風の穏かな集落風景。

w005001018)中間にはのどかな日常がある。

w005001019)どこからでも七五岳が見える。